

氏 名：山田 露子  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第213号  
学位授与年月日：2022年3月10日  
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当  
論文審査委員：主査 小林 京子（聖路加国際大学教授）  
副査 堀内 成子（聖路加国際大学特命教授）  
副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）  
副査 北村 俊則（北村メンタルヘルス研究所所長）

論文題目：妊婦の胎児ボンディングとファシリテーター／レギュレーター指向との経時的関連

#### 博士論文審査結果

本論文は、母親が胎児に特別な感情が湧かないといった胎児へのボンディング障害への関連要因を探索したものである。関連要因は母親が乳児に順応するファシリテーター指向と母親が自分自身に乳児を順応させるレギュレーター指向に着目して、妊娠初期・妊娠中期・妊娠後期の3時点の縦断調査から明らかにされた。ファシリテーター・レギュレーター指向は経時的に次の時点の指向に影響しながら胎児ボンディングを予測し、かつ、胎児ボンディングは次時点以降の指向を予測するとした基本概念枠組みに、ボーダーラインパーソナリティ、心理社会的予測因子（成人アタッチメント、属性、つわり、子育ての意志、出生前診断、超音波画像、妊娠経過の異常、パートナーからのサポートの満足度、児童期の心理的虐待体験）から成る概念枠組みを構築し、299名のデータを分析した。

分析の結果、①妊娠中期のレギュレーター指向が強い程、胎児ボンディングの「妊娠後期の胎児への怒りと拒絶」を強くしていた一方、胎児ボンディングから妊娠後期のレギュレーター指向への影響はなかった。②胎児ボンディングの「胎児への愛情の欠如」とファシリテーター指向は負の相関を示した。③ボーダーラインパーソナリティ構造は妊娠中期のレギュレーター指向を介して、妊娠後期の「胎児への怒りと拒絶」を強くしていた。④パートナーに対する不安定な成人アタッチメントとパートナーからの情緒的サポートの満足度は、妊娠中期の「怒りと拒絶」に影響していた一方、妊娠中期の「胎児への愛情欠如」は妊娠判明時の否定的な反応から予測されることが明らかになった。

審査では、ボーダーラインパーソナリティーに着目することの説明の追記、パーソナリティー傾向であるボーダーラインパーソナリティーの短縮版 Inventory of Personality Organization の得点の扱いが伝わりにくく、本研究の対象者のパーソナリティーを解釈しにくいため、説明を追記すること、対象者の属性の表を修正すること、考察を妊娠期を軸として構成し結果の適用・活用可能性について追記することの指摘があり、2022年2月2日に修正論文が提出され、審査員全員の確認により合格と判定された。

山田落子氏は、修士論文から本研究に続くテーマに一貫して取り組んできた。そのプロセスには胎児ボンディングの概念分析、胎児ボンディング尺度の因子構造検討、ボーダーラインパーソナリティー尺度開発が含まれ、論文出版がされている。本論文についても新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、3時点の縦断研究を完遂し、質の高い研究結果を提示するに至った。山田氏のこのような緻密で主体性を持った研究継続・遂行の能力は研究者の資質を証明している。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。